


ゆい  
結 通 信

NO. 34

2017年7月25日

今こそ学び直しを！

牧野直子

 あの戦争から何を学んだか


今年8月、日本は敗戦から72年を迎えようとしています。当時20才だった方は92才。そして小学生だった方は80代です。長寿時代の今、80代、90代の方はまわりにも沢山おられますが、戦争体験談をお聴きできる機会は年々少なくなっています。

「退却」を「転進」、「全滅」を「玉砕」、そして「敗戦」を「終戦」と言い換えて、戦争の事実を直視しなかった私たちの戦争観。「過ちは二度と繰り返しません」と言いつつ、過ちの歴史を検証してこなかった72年間ではなかったでしょうか？ あの戦争から私たちは何を学んできたのか、最近そんな思いを強く持っています。

安倍政権が集団自衛権の閣議決定をしたのは3年前の7月でした。国会の議論を経ることなく、それまでの日本国憲法の解釈を大きく逸脱したこの後も、多くの反対運動の中で安保法制が成立した後、選挙で支持され続けてきた現政権。最近の選挙の投票率の低さをみると、選挙によって意思表示していくことの難しさを痛感します。



広島平和公園の碑文  
「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返させぬから」

 あの原発事故から何を学んだか

2011年の福島原発事故から6年経ち、今年4月にようやく帰還解除された浪江町の閑散とした様子をテレビで見ながら、空しい思いで一杯になります。福島原発事故から学んだドイツや中国、台湾は脱原発、自然エネルギー政策に大きく舵を切りました。原発事故を起こしながら、その問題点に正面から向き合おうとせず、原発再稼働をさせようと躍起になっている日本。日本はエネルギー政策において世界の中で大きく遅れをとってしまっています。その国に住んでいる私たちは一体、どんな未来を描こうとしているのでしょうか。未来の子どもたちに何を託そうとしているのでしょうか。

 日本国憲法は誰のものか

戦後、新しい理想に燃えて「日本国憲法」を作ったはずなのに、私はあまり憲法について学んでこなかったように思います。誰のために、何のために憲法を作ったのか、一つ一つの条文に込められたものを、今一度読み直し、学び直してみると色々見えてくるような気がします。戦後史について、学校ではほとんど教わることはありませんでしたし、そのことについて友人と議論する機会もありませんでした。改憲がいよいよ現実味を帯びてきましたが、今こそ学び直す必要を感じています。

 これからの社会に必要なものは

私は団塊の世代の一人です。戦争体験もなく、戦後に生まれた憲法の中で、高度成長期に子ども時代を過ごしてきました。そして今、前を向くと団塊の世代が後期高齢者となる2025年問題が迫ってきています。問題は山積みですが、道を切り開いていくためには私たち一人一人が、課題をシェアし、力を合わせて努力していくことが必要です。そのために「結みのお」で共に学び直して、さらに人間関係の結い直しもできればと思います。今からでも決して遅くはありません。諦めずに「共謀罪」に脅かされないお互いを信じあえる豊かな関係づくりをしませんか？